

農村振興局長賞（捕獲鳥獣利活用部門（団体））

地域住民等の理解と協力を得ながら、ICT を効果的に活用し、捕獲から加工販売、堆肥化まで一貫した取組を実践。高い加工技術と徹底した衛生管理により、国産ジビエ認証を取得したほか、「ジビエツーリズム」などの幅広い取組が、農作物被害の減少のみならず地域活性化の起爆剤を促進。

株式会社 いのびー イノP みやがわ まさひと （代表取締役：宮川 将人）

主な取組

うきし
熊本県宇城市

- 箱わなにICT 機器を取り付け、捕獲通知受信後すぐに捕獲現場に出向き、迅速に止め刺し、放血を行い、おおむね30分以内に施設へ搬入し加工しているほか、要望に応じ、職員が現地へ出向き、止め刺し、放血、回収を実施。これにより、止め刺しに不安のある若い捕獲者や、運搬が困難な高齢の捕獲者も安心して捕獲が可能。
- ジビエ利活用は鳥獣被害対策の一環であり、大きな目的は地域や畑への被害を防ぎ、人や農家を守ることであるとの理念のもと、県や市町村、民間団体などの実地研修を積極的に受け入れ、イノシシが生息しにくい環境をつくるための「えづけSTOP!」の取組や、防護柵の設置、箱わなによる捕獲などの普及啓発活動を推進。
- 持続可能な取組を実現するため、捕獲したイノシシを捨てることなく、精肉や加工食品のほか、ペットフードや石鹼、皮革とフル活用しているほか、動物園のと体給餌に活用している。これらの残渣や加工できないイノシシは減容化施設にて処理。

【利活用割合】

取組開始前 平成30年度：0% → 令和3年度：11.4%